

# 未来への希望とノスタルジーが邂逅する風景

現代の日本社会はストレス社会とも言われており、

人々は心の拠り所を求めている。

だが、人間が本当に求めている  
心の拠り所とは何だろう？

それは、かつての日本で当たり前に見られた  
自然風景ではないだろうか。

海、山、林... 都市部で失われつつあるこの  
景観は、見た人をどこか懐かしい故郷に帰ってきたような気分にさせる。

こういった景観こそが人々の心の拠り所となり、  
ストレスの多い現代の都市空間に必要な要素で  
あると考える。

本提案では万博公園北西部に山や海といった自然風景を創出し、

心身共に健康に過ごせる緑地空間の在り方について着想を述べる。

また発電施設の見せ方やエントランスの因案等、未来社会における

空間の新デザインも提案していく。



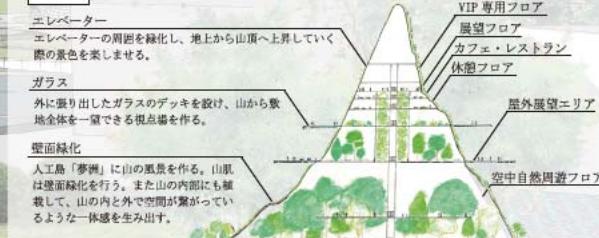
## 大阪湾に浮かぶ山

高さ100m、直径200mの山と、それに連なる小さい山をエリアに造成する。懐かしさを感じる自然原風景として配置したが、山の内部は階層構造になっており、多数の来場者を収容できる施設としての機能も併せ持つ。階層としては、屋内でも緑溢れる景観を鑑賞できる空中自然周遊フロア、強化ガラスで作られた屋外テラスにて万博公園を一望できる屋外展望フロア、休憩フロアやレストランフロア、最上階のVIP専用宿泊フロアを想定している。内部をビルのような使用方法をするため、外壁は壁面緑化で外観を自然の山に近づける。

植栽樹種としては、海岸近くという立地条件上  
潮風に強いウバメガシ、トベラ、  
ハマヒサカキ等を使用する。



### 断面図



登録番号 d-018

# エントランス

グリーンテラスの入り口となるエントランス。  
多様なものが来訪者をもてなす



ボロノイパターンでデザインされたパビリオンエリア。そこからグリーンテラスと称される万博会場北西部へと移動してエントランスを抜けると、巨大な山と円形の舗装デザインが来場者を出迎える。



入口に近い最初の広場は中心から放射状に模様が広がっており、来場者にあらゆる方向に興味を持って進んでほしいという意図がある。円形広場の内側は芝、石材、木材舗装など多様な素材で構成されている。中には円形の遊具や芝生広場、水辺も配置されており、多様な円形敷地の利用方法が体験できる。また、このエリアで決まった動線はない。来場者は円と円の間の園路を通るもよし、円形の広場を突っ切って目的地まで行くのもよしと、歩行者に対して自由度が高い設計とした。

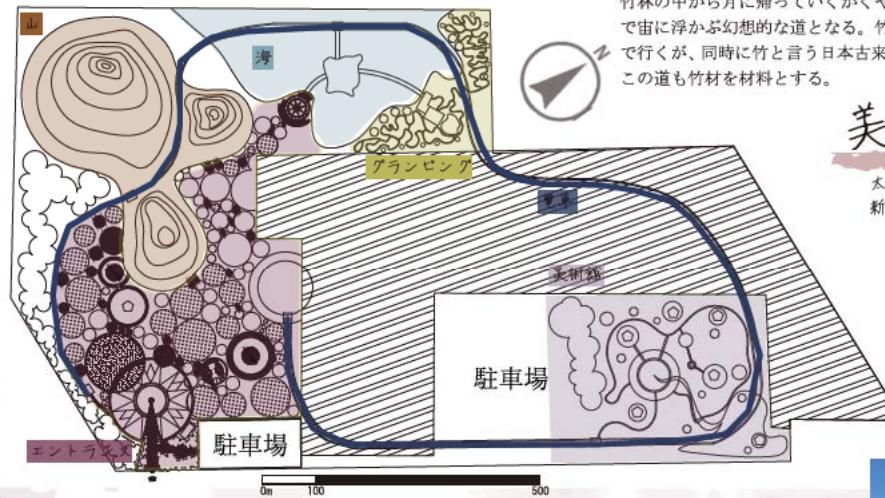


# 海・電車

車窓から美しい海を眺めながら小旅行を



敷地に点在するそれぞれのエリアを結ぶ重要な交通手段だけではなく、乗車中にも景色を楽しめる。さらに電車自体が山の間や海の上を走ることで景色の一部になっている。



# グランピング

竹林の中で現世をわすれて過ごすノスタルジーな時間



## CHECK! SDGs

竹材を用いた宿泊施設を設置。  
竹林放棄などの現状や課題について来場者に考えてもらうきっかけ作りの場としての利用も。



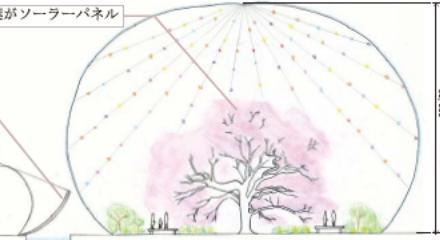
# 美術館

太陽エネルギーから着想を得たアートを展示場。ソーラーパネルの利活用や設置方法に対する新たな提案をする。



花弁が晴天時は開き、雨天時には閉じる

ソーラーパネルで構成された折り鶴のオブジェ



登録番号 d-018